

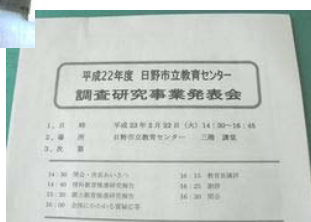
日野市立教育センター一報

教育センターだより

第23号 平成23年3月10日発行



研究発表



発表会配布物

平成23年2月22日
調査研究事業発表会

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



教育センターの今年度の成果に寄せて

日野市教育委員会 指導主事

小林 邦子

日野市立教育センターは、教育課題や市民のニーズに応え、日野市の教育の充実と振興を図る教育・研究機関として、今年度も新たな取組を進め、大きな成果をあげました。

調査研究部は、ＩＣＴ教育推進研究、理科教育推進研究、郷土教育推進研究、ひのっ子教育 21 開発委員会研究（外国語活動における小・中の円滑な接続）を進めるとともに、研究紀要の電子化、Web 発信等を行い、情報教育センターとしての機能を充実させました。

ＩＣＴ教育推進研究では、次年度以降のＩＣＴ環境を整えるとともに、日野市独自「ＩＣＴマーク」の習得を「セキュリティ・授業・校務」各部門で大幅に推進しました。セキュリティ部門で全校がマークを取得したことは、今年度の大きな成果です。また、日野第四小学校、平山小学校の 2 校が総務省の「地域雇用創造 ＩＣＴ絆プロジェクト」に採択されたことも生かし、「ＩＣＴ活用実践事例集」の充実を進めました。

理科教育推進研究では、理科支援員の活用推進、企業や多摩動物公園と連携した研修会を充実させるとともに、ＣＳＴによる理科実技研修と学校支援、理科支援センターとしての機能をもつ教育センター理科実験室の整備を行いました。日野の自然を記録したビデオは、理科の観察学習の一助となることを願い、関係者の協力を得て作製したものです。

郷土教育推進研究では、夏季研修会で百草・倉沢地区のフィールドワークを行うとともに、新たな郷土教材を開発した学習活動を進め、「郷土日野指導事例 第 6 集」の作成に取り組みました。郷土のよさを見付け、授業に活用できる具体的な資料を整備・充実化することは、「ふるさと日野」に誇りと愛着をもつ児童・生徒の育成につながっています。

ひのっ子教育 21 開発委員会では、外国語活動に焦点をあて、小・中学校の教員で構成したブロックごとに研究テーマや視点を定め、授業を通した指導法の研究を進めました。今年度の成果を授業事例集としてまとめ、滝合小学校の研究発表会で報告しましたが、日野市の外国語活動におけるカリキュラム作成を目的とし、内容の濃い取組を進めています。

研修部では、全体研修会、各種研修会の補助をはじめ、急増する若手教員の資質向上を図るため、1 年次から 4 年次までの研修にかかわり、継続した授業観察や指導助言、学校の求めに応じた参観等を指導主事と連携して行いました。若手教員の研修体系は変化の途上であり、支援指導体制の基盤となる研修部の役割が一層期待されます。

相談部は、**一般教育相談「教育相談室」**、不登校など学校生活への適応指導を行う「わかば教室」、不登校児童・生徒への学習支援「**e - ラーニング**」により、学校・家庭・関係機関と連携しながら多様化・複雑化する相談活動と学習支援の充実に取り組みました。生活指導主任研修会や 10 年経験者研修を通した教育相談の普及、特別支援教育推進チームとの連携、行事や進路指導の充実、市が発足させた「日野サンライズプロジェクト」とのかかわりが今年度の大きな特徴です。教育相談員や指導員、カウンセラー、登校支援員等スタッフによる粘り強く丁寧な支援が、相談活動の成果に結び付いています。

このように、日野市立教育センターの事業・活動は、「教育のまち 日野」の学校教育を支え、新たな教育課題への方策を示し、児童・生徒の確かな学力や健やかな成長をはぐくむものです。今後も、日野市教育委員会との緊密な連携のもと、教育センターの人材とネットワークを生かしながら、教員の資質向上に向けた取組と魅力ある教育研究の推進を、共に進めていただくことを期待しております。

I 調査研究部

I C T活用研究委員会

I C T活用による新たな学びの実践 (学びのイノベーション)

教育経営係

昨年の閣議決定『新成長戦略』や、文科省の『教育の情報化ビジョン』には、「・・・わが国の競争力や子どもの学力低下が進んでいる。それらの課題を解決するために、教育の情報化を進め、教育の質の向上を図り、21世紀にふさわしい学びと学校を創造するため、(I C Tを)本格的に取り組んでいく必要がある」と、指摘しています。

そして、①子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び ②子ども同士が教え合い学び合う協同的な学び ③教員全員のかかわりと情報共有によるきめ細かな指導 について具体的な例を示しています。

そこに示された多くの具体例は、日野市においてすでに実践されているところです。昨年末、日野市のこれまでのI C T活用教育が評価され、総務省の絆プロジェクト(教育情報化事業)に指定されました。

先進的な研究発表会

対象校である平山小、日野四小には、4年生以上の児童に一人1台のタブレットパソコンが配備され、3台のインタラクティブホワイトボードも配備されました。両校の研究発表では、I C T機器を活用した個別学習、協働学習の工夫による、学力向上の取り組みが公開されました。

◎平山小では、学力向上を目指すI C T活用(算数)のテーマのもと、診断・補充教材による完全習得と発表・討議で高める数学的な思考力の育成を図っていました。

◎日野四小では、学ぶ楽しさの実感と自ら学ぶ意欲の向上を目指して、問題解決型学習の指導の工夫と評価について、理科と国語科を通して実践を深めていました。

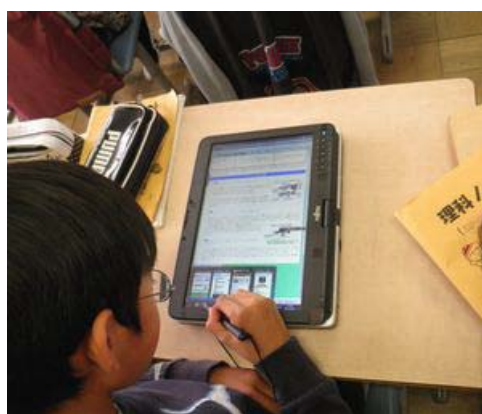


(子ども同士の協同的な学び)

自分のとっておきの写真をスタディノートに貼り付けて、72インチの大型電子黒板で発表します。一人1台のタブレットパソコンから送信した全員の写真が映し出された大画面の前で質問したり、教えあったりして、活発な話し合いのなかで考え方を深めます。

(一人1台のタブレットパソコン使用)

一人に1台のパソコンが配置され、今まではパソコン室でしか出来なかったことが、教室でも、廊下でも、体育館でも無線LANを使って、インターネットで調べ学習が出来ます。日野の植物について調べ、発表します。



理科教育推進研究委員会

魅力ある理科授業の展開を目指して

教科等教育係

1 教員の研修(実技研修)

11月30日(火)に実施しました、小学6年生「電気の利用」の研修会について報告します。

参加者は、教員11名、本委員会や教育センター所員等3名の14名でした。

小6「電気の利用」の学習は、新学習指導要領で新しい単元として6年生に導入され、移行措置により、今年度から授業が行われます。本研修会は社団法人・日本電機工業会(JEMA)の教員研修プログラムに基づいて行われました。

はじめに、「電気の利用」の学習で使用するコンデンサーや発電器、発光ダイオード(LED)、電熱線など、授業での活用することを想定して行った実験結果を提示していただきました。授業で使う教材の推奨品や、実施上の注意事項もデータを提示しながらご指導いただきました。

その後、授業で行う蓄電や発電、発熱の実験を指導する場面を念頭に置きながら、2人一組で実習しました。

参加者からの感想です。

- ・研修に参加できてよかった。学年の先生方にも伝えたいです。
- ・プロの方に教えていただける機会を頂けて、感謝です。ぜひ、他の単元でも学べたらいいなと思います。
- ・今日の研修のおかげで、今は三学期が楽しみになりました。



この研修会で配布されました「ティーチャーズガイド」の内容は、日本電機工業会のホームページで見ることができます。

2 理科支援員等派遣事業

小学校17校中13校で理科支援員を活用して理科の授業をすすめています。支援員の教員免許状保有者は9校で、免許状が無い方は4校でした。数校の活用の様子を参観しました。



A校(教員免許無)：指導案(略案)が用意され、授業で使用するものを準備し、授業中は教師の補助をしていました。また、授業後は、後片付けや物品の整理をしていました。

B校(退職教員)：授業予定を連絡し、それに基づいて支援員が準備をしていました。授業中はチームティーチングの指導者として、授業者の説明の補足をしたり、児童に助言をしたりしていました。

理科支援員の活用の仕方は、先生方の要望や支援員の経験などにより、それぞれの学校で活用の仕方を工夫していました。今年度は理科支援員等派遣事業の費用が大幅に減額されたため、活用時間が少なくなりました。活用時間を増やして欲しいとの要望も出ています。

郷土意識を育む指導の在り方

～郷土の歴史・自然・文化・産業・人の教材化を通して～

ふるさと教育係

1 研究の趣旨と重点課題

郷土教材を活用した授業は、指導計画に体験学習や調査活動を位置づけることにより、具体的に楽しく学ぶことができます。日野市の小・中学校で、郷土教材を活用した授業がより多く実践され、児童・生徒が日野のよさに気付き、日野を見直し、郷土意識を高めていくことが、本委員会の願いです。即ち、「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を授業を通して育成することが、本委員会研究の趣旨です。

そこで、今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題3点を設定しました。

- ① 郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
- ② 図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③ 郷土教材や実践事例の電子データ化

2 郷土教育を推進する指導者の育成

- ① 夏期郷土教育研修会（市教委共催）を実施し、各小・中学校のリーダーを育成する
 - ・午前 百草・倉沢地区フィールドワーク
 - ・午後 七生緑小学校で発表・講義・演習
- ② 郷土教育推進研究委員が各学校、地域で郷土教育のリーダーとなる
 - ・毎月の委員会で、実践報告・協議を重ね、研究を深める
 - ・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の実践に生かす。各委員が授業力を向上させた。

3 博物館・図書館・文化スポーツ課との連携

- ① 郷土に関する資料や情報が蓄積されている。
- ② 蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる。
- ③ 本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的に学ぶことが出来る。

4 郷土教材の電子データ化 教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ① 郷土日野指導事例 第1集～第5集 全ページが閲覧できる（図版がカラーで見られる）
- ② 郷土日野画像図版資料集 第5集分が完成 写真や図表が、すぐ授業で使える

5 郷土教材を活用した学習活動

- ① 日野第六小学校 第4学年 総合「地域の自然を知ろう～多摩平の森の自然・魅力～」
 - ・ねらい 身近な自然に目を向け、学校の樹木と多摩平の森フィールドワークを通して、自ら課題を設定し探求する活動を行う。多摩平の森の魅力と住民の熱い思いに気づく。
 - ・成果 自治会長、住民と連携した授業が実践できた。校内共有ファイルに単元指導計画やワークシートが保存され、昨年度の実践を継承・発展させることができた。
- ② 平山小学校 第4学年 社会・道徳・総合「平山おかぼを育てよう」
 - ・ねらい 地域の農家と連携して「平山おかぼ」を栽培・収穫する体験活動を行う。地域の伝統文化と継承する意義を理解し、地域を誇りに思う心情を培う。
 - ・成果 農家の指導のもと、平山おかぼを育てる体験活動を年間通して実施した。その発見者である「林丈太郎」の生き方を学び、郷土への誇りと愛情を育むことができた。
- ③ 東光寺小学校 第3学年 社会・総合「日野の果物～梨園見学会～」
 - ・ねらい 地域の梨園農家と連携して、年間を通した梨園見学会を行う。農家の工夫・苦勞・思いを理解し、農家の人々の生き方に学ぶ。
 - ・成果 おいしい梨ができるまでの農家の仕事を理解し、農家の工夫や苦勞に気づき、地域を誇りに思うようになった。農家に対する感謝の気持ち、食べ物を大切にする心情が育った。

ひのっ子教育 21 開発委員会

小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続

－小・中連携の視点を明確にした授業づくり－

基礎調査研究係

1 小学校外国語活動の指導が来年度より始まる

新しい小学校学習指導要領の実施により、小学校第5学年及び第6学年に35時間の外国語活動が位置づけられ、4月には指導が始まります。

2 ひのっ子教育 21 開発委員会の本年度の課題

多くの小学校では総合的な学習の時間で「英語活動」などの形で指導されてきましたが、学校間で指導内容や方法などにばらつきが見られています。また、中学校では教科として外国語（英語）を指導してきましたが、現状では新たに導入される小学校の外国語活動との接続や連携を考慮しながら進めているとはいえません。そこで、小学校外国語活動を充実させるとともに、小・中学校がそれぞれの先生方が相互の指導内容を理解し、円滑な接続を考慮した指導を工夫していく必要があります。4月来、国立木更津工業高等専門学校 清水公男先生のご指導のもと、本委員会は次のテーマを設定し研究を進めてきました。



研究テーマ 「小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続
－小・中連携の視点を明確にした授業づくり－」

指導のねらい 小学校外国語活動 → 「コミュニケーション能力の素地を養う」
中学校外国語（英語） → 「コミュニケーション能力の基礎を養う」

指導の工夫の柱

- ① 小学校教員同士や、小・中学校教員の交流を密にし、お互いの授業を観る機会をもつ。
- ② どの学校でも活用できる外国語活動のアクティビティ、教材や教具を提案・開発する。
- ③ 小・中連携の視点を明確にした授業づくりを研究し、実践事例を公開していく。

3 実践授業と協議会の実施

市内の小・中学校を4つのブロックに分け、分科会ごとに研究テーマを設けて、講師による専門的な指導の後、実践授業を行い実践検討を進めてきました。

各ブロックはテーマを掲げ、提案授業（9～12月、全5回）を行い研究協議会で検討しました。

- Aブロック：コミュニケーションをとりやすくするための場面設定の工夫
- Bブロック：中学校のゴール地点を示し、小・中の交流を図る
- Cブロック：コミュニケーションを楽しむためのアクティビティの工夫
- Dブロック：コミュニケーションに対する意欲的な姿勢を育てる工夫

4 中間報告の実施

2月10日には、滝合小学校の「外国語活動」の研究発表会において、中間報告書（研究概要及び実践指導案集）を配布し、分科会で発表しました。

5 1年間を振り返って（今年度の成果と課題）

- ① 小学校外国語活動の研究授業の実施、及び小・中連携の実践の積み重ね
- ② 外国語活動、外国語における教材の情報交換と開発
- ③ 委員の小学校外国語活動・中学校外国語の指導に関する理論的な知識の理解
- ④ 外国語活動・外国語指導の先進的実践教員の育成

今後の課題としては、小・中学校の接続を踏まえた学習カリキュラムの作成があげられます。

Ⅱ 研修部

日野市教育委員会主催研修会から

教職員研修係

教育委員会学校課が計画した日野市小・中学校教職員の年間の研修会について、研修係 6 名が協力体制をとってきました。以下は、市教委学校課指導主事より研修部が委託を受けた研修会一覧です。

月	日	研 修 会 名	内 容
4	9	学校組織マネジメントⅢ	日野市の教育行政（浮須勇人参事）
4	12	初任者研修連絡会	初任者・新規採用者の研修等について
4	14	学校組織マネジメントⅠ（校長）	ひのスタンダードについて（明星大学 小貫悟准教授）
4	20	初任者研修会	開講式「社会人の常識・教師の基礎基本」（浮須勇人参事）
4	21	学校組織マネジメントⅡ（副校長）	日野市の施策における副校長の役割（梶野統括指導主事）
5	18	初任者研修会	I C T活用研修
5	28	授業力向上研修Ⅱ	4 年次教員研修 自己の授業の問題点の発見
6	1	授業力研修Ⅰ	2・3 年次教員研修の進め方と考え方
6	8	初任者研修会	児童理解と学級経営
7	6	初任者研修会	接遇・マナー研修
7	22	人材育成と組織力の向上	富士通（株）サービスビジネス本部 清水裕子主席部長
7	23	日野市夏季教員全体研修会	いじめ・不登校への生徒指導体制づくりの 3 つの視点 東京理科大学大学院 八並光俊教授 ひのスタンダードを深める 国立特別支援教育総合研究所 廣瀬由美子統括研究員
7	26	郷土教育研修会	フィールドワークとまとめ
7	29	小学校外国語活動研修会	大妻女子大学・同大学院 服部孝彦教授
8	2	電流の働きの実技研修会	富士電機システムズ（株） 松本康部長
8	3	理科実験の基礎基本とデジタル教材	大成教諭・栗木教諭・増田教諭
8	4 ～6	初任者宿泊研修会	キープ・フォレストーズ・スクール 日野市教育委員会 指導主事
8	19	昆虫スキルアップ研修	多摩動物公園で体験研修（主に昆虫の飼い方）
8	20	授業力向上研修Ⅰ（2・3 年次教員）	自らの授業改善について
9	9	道徳教育研修会・心の教育研修会	公開授業 仲田小学校 2 年 清水裕子教諭
9	14	初任者研修会	道徳授業から学ぶ
10	19	初任者研修会	授業研究（理科） 日野第二中学校 宮田康宏教諭
11	2	人権教育理解推進委員会	講師 女子栄養大学 三木とみ子教授
11	9	初任者研修会	授業研究（社会） 日野第七小学校 葛貫祐介教諭
12	7	初任者研修会	授業研究（算数） 日野第二小学校 五十嵐優子教諭
1	18	初任者研修会	特別支援教育
2	8	初任者研修会	教育実践発表会（講師 潤徳小学校 宮崎芳子校長、 日野第二中学校 尾形斉校長）
2	25	学校組織マネジメントⅢ	今年度のまとめ（講師 日野第四中学校 枝村晶子副校長）

この他に研修部 3 名が初任者 50 名の授業観察を個々に年間 3 回担当し市教委に報告しました。

Ⅲ 相談部

「日野市教育相談室」の活動

一般教育相談係

<重点目標>

- ・多くの方々に利用される相談室にし、教育相談の啓発に努める。
- ・関連機関との連携を推進し、積極的に要望に応える努力をする。
- ・学校や適応指導教室等と連携を図りながら相談を実施する。
- ・専門性の向上に努め、質の高い相談を心がける。
- ・相談環境の充実に努める。

<本年度の相談概況>

4月から1月末現在までの教育相談活動は、合計1697件です。

継続相談(来室) ケース						
面接・親	面接・子	※電話 面接等	子どもこころ の電話相談	電話相談	研修会等	合 計
499	298	661	20	182	37	1697

※電話面接等は、継続相談ケースの親・子との電話での相談や関係者等との面接や電話での相談です。

来室相談は、相談内容によって長期間になる場合があります。本年度は、全66ケースのうち19ケースを終結させることができました。内訳は、前年度からの継続43ケースのうちの10ケース、そして本年度、新規に受け付けた23ケースのうちの9ケースです。

<本年度、相談活動の充実に図るために重点的に行ってきたこと>

1 学校との連携・協力

日野市教育委員会では、学校教育における重要課題の一つである不登校問題に対し、総合的な対応を図るため、本年7月に「日野サンライズプロジェクト」を立ち上げました。当相談室においても、不登校を主訴とする相談が最も多く、適応指導教室やeラーニング担当者とともに、プロジェクトに協力させていただきました。また、教員の10年次経験者研修や生活指導主任研修会で、教育相談の啓発やノウハウの提供に努めています。各学校のスクールカウンセラーや担任等への情報提供や連絡は、100回以上になりました。

2 質の高い相談を目指して

日常的な情報交換とともに、週ごとの室内連絡会や定期的なスーパーバイザーを招聘した研修会を実施して、相談員間の情報共有と専門性の向上を図り、適切な相談を心がけました。前年度から課題の虐待相談等への対応は、児童相談所や子ども家庭支援センターからも助言をいただきながらCAPS（対応マニュアル）の作成に取り組んでいます。また、相談者へのアンケートを実施し、相談者の声を生かす取り組みを行っています。年度末には集計し、室内評価とともに次年度の相談活動に反映させていく予定です。

3 教育センター内の連携の強化

外部の関係機関とのよりよい連携の継続とともに、これまでケースごとに行ってきた「わかば教室」担当者との情報交換を、組織的で定期的な連絡会に発展させました。今後も、センター内の日常的な連携を図りながら、特別支援教育推進チームをはじめ各関係機関とのよりよい連携・協力関係のもとで相談事業に取り組んでまいります。

学校生活相談 「わかば教室」の活動

学校生活相談係・わかば教室

学校生活相談係「わかば教室」は、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題や通室する児童・生徒に対しての相談・指導・援助、及び不登校問題に関する状況把握・情報提供や助言等を行ってきました。

「わかば教室」の主な活動は次の通りです。

1 教育相談活動

カウンセラーが、通室する一人一人の子どもと定期的に継続して面接を行いました。随時保護者や在籍校とも相談してきました。継続したカウンセリングで多くの子どもが精神的に安定し、目標を持った生活や高校受験に向けての努力をするようになり、重要性がますます増えています。保護者との密な連絡・相談がよい結果を生んでいます。今後も工夫改善をしていきます。

2 教育活動

(1) 楽しい体験活動（わかばタイム・行事）



書初め大会



郷土かるた取り大会

「わかば教室」では、年間を通して幅広い体験活動を行っています。

1月は書初めとかるた取りを楽しみました。体験活動には、いつも参加人数が多く、笑顔・活気、時には涙溢れる感動がありました。活動参加から学習参加へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。

(2) 丁寧な生活指導

指導員は本教室の方針に沿って、いつも子どもの状況を掴み各々の理解のもとに、よい人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。子どもの多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達と時程に沿って行動できるようになりました。毎日朝・昼休みは、皆でスポーツを楽しんでいます。

(3) 個に応じた学習指導（5教科を中心にした学習タイム）

学年や学習進度、子どもの思い等を考慮して個別時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・援助を行いました。また、自分のペースで学習ができるパソコンでのeラーニングを、楽しそうにかつ意欲的に学習する姿も見られました。

3 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

以上の活動は学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力に支えられています。子どもたちの活動には、地域の方やボランティアの学生等の協力が大きかったです。一般教育相談とも日常的に連携し協力しています。



パソコンを活用して学習

今年度は年度途中からの通室者が増え、昨年度と同じくらいの通室者でしたが、部分登校者や学校復帰者も増えました。しかしながら、通室生の多くは乗り越えなければならない課題を多く抱えております。今後も子ども理解に努め、子どもたちが目標を持って向上していけるよう援助するとともに、学校に戻れる子どもが一人でも多くなるように学校や家庭、関係機関との連携・協力を強めていきたいと思います。

「e-ラーニング」を活用した学習支援

1 “わかば教室”の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

わかば教室通室児童・生徒は、年間を通し週二日e-ラーニングで学習しています。つまりきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学んだり、各学年の教科の内容も進度に応じて選んで学習できるので学力への不安が軽減されます。学習への自信が前向きに学校復帰や進級や進路を考えるきっかけにもなっています。

2 「在宅(家庭)」の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

さまざまな理由から学校に登校できないなど、長期間の欠席状況にある、またはそのような傾向にあり、利用が認められた児童・生徒に対して、「在宅e-ラーニング」を活用して学習支援を通じて登校支援を行っています。家庭訪問をして、保護者と児童生徒との面談を通して学習相談を行い、個別の状況に応じた学習ができるように初回学習に立会っています。さらに、継続的に学習の進捗を見ながら登校支援員が適宜家庭訪問や電話等で支援しています。学校や関係機関との連携でわかば教室へ通室し始めたり、登校できるように元気を回復するきっかけにもなっています。 ※自宅でe-ラーニングを始めるには？ まずは、在籍校に相談してください。

< e-ラーニング利用期間と進級進学に伴うQ&A >

Q1 利用できる期間は決まっていますか？

A：原則として、利用が許可された年度の3月31日までです。

Q2 進級または進学後も継続はできますか。

A：進級については、在籍校に、利用を継続することを申し出てください。小学校を卒業し、中学校に進学する場合は、小学校卒業時点で終了となります。中学校入学後は、在籍校となる中学校に利用を申請してください。

教育資料広報係

1 図書資料室利用状況

(1) 書籍関係

平成22年度 51冊

教育相談関係 体育指導・運動会・水泳 小学校外国語関係

道徳指導関係 国語指導関係 算数指導・教科書 日野市郷土関係資料

(2) ビデオ・DVD関係

平成21年度 21本 社会科関係 世界遺産 プロジェクトX 教育相談関係

平成22年度 50本 道徳関係 世界遺産 日本名所 名曲アルバム

2 ホームページによる広報活動

センターのWebサイトで、21年度市内各校の研究集録・紀要を紹介しています。

また、「郷土日野」指導事例集（第1～5集）をダウンロードすることができます。日々の教育活動や授業にご活用ください。

日野第一小学校	日野第二小学校	日野第三小学校	日野第四小学校
日野第五小学校	日野第六小学校	潤徳小学校	七生緑小学校
滝合小学校	日野第七小学校	南平小学校	旭が丘小学校
平山小学校	東光寺小学校	夢が丘小学校	日野第三中学校